



問 中学校における拠点型部活動の 具体的内容とその長所・短所は

中学校における部活動は、学習意欲の向上や責任感・連帯感の養成など、学校教育が目指す資質・能力の育成に資するものであり、各学校や地域の実態に応じ、持続可能な運営体制が整えられるものとするのが学習指導要領に示されている。

津市には、立地条件・規模が異なる20校の中学校等が存在するが、令和8年度から改革実行される「拠点型部活動」の具体的内容等を問う。

答 拠点型部活動は、やってみたい を実現し成長機会を確保する

拠点型部活動は、活動人数等に応じて定めたエリア内に拠点校を設け、学校の枠を超えて生徒が集まって活動する学校部活動で、令和8年夏から軟式野球やサッカーなど運動部9種目で実施する。

長所としては、一定の人数が確保され、実践的な練習や多様な仲間との活動ができること、これまで選択できなかった種目に参加できること、専門的な指導が受けられることなどが挙げられる。

短所としては、公共交通の利用や保護者による送迎など活動場所までの移動にかかる負担のほか、人間関係への不安や一貫した指導、活動状況の把握が難しくなることへの心配などを認識している。

その他の質疑・質問

- 通学路における無電柱化の推進に関して
- 津市役所本庁舎等の水害防止対策、エレベーター内防災用チェアの設置、エスカレーターの安全管理について
- 津城跡の環境整備（石垣上の樹木）に関して
- 中部国際空港への海上アクセス確保・充実のための津市新船舶建造に関して など

エスカレーター事故と混雑を防ぐため、「足跡マーク」の表示設置の取り組みが望まれる



問 津市通学路交通安全プログラムの 運用について問う

津市は、通学路交通安全プログラムの運用において、危険箇所対策の新規要望を各单位PTAにつき年2カ所に制限している。国の「通学路における合同点検等実施要領」では、要望件数を制限していないが、国の方針との整合性は。

また、危険箇所を把握し、関係機関が連携して改善していくのがプログラムの趣旨であるが、要望がゴールになるなどの形骸化を防ぐ取り組みは。

答 通学路の危険箇所を把握し、合 同点検や対策を実施している

通学路の危険箇所対策について、各单位PTAからの新規要望は年2カ所としているが、交通事故や路面の状況が日々変化する中、新たな危険箇所がないかを丁寧に掘り起こすとともに、前年度の要望は継続要望として提出することができ、学校・警察・道路管理者・教育委員会等が連携して合同点検を実施し、対策内容の検討、実施、効果検証を継続的に行っていることから、国の方針との整合性は取れている。

校長会等においてプログラムの趣旨を改めて周知し、危険箇所をしっかりと把握するよう指示した上で、関係機関と連携して安全確保に努める。

その他の質疑・質問

- 運動施設の利用料金等について
 - 統一的な算定基準・方針の策定と地域配慮は
- 救急車（高規格救急自動車）の更新について
 - 更新基準超過車両の現状と複数台更新の考えは
- 水田活用の直接支払交付金の見直しについて
 - 国の方針転換への市の認識と、農家を守る基本姿勢は など

津市通学路交通安全プログラム

